

社協議会



特集

子どもの育ちと学びをつなぐ 「一つの学園構想」…2

目次 -CONTENTS-

表紙：坂下南小学校運動会

7月から総合健(検)診が始まります	6	ばんげのいいところ みつけた！・	
国保の窓口	7	御田植祭のお知らせ	14
齋藤町長のスマイルトーク・まちの話	8	食育だより	15
平成29年度 会津坂下町のごみ排出状況	12	お知らせ information	16
図書室だより・町史編さん調査余話(13)	13	こどもと健康の広場	20
		地域おこし協力隊を終えて・小学校運動会	22

子どもの育ちと学びをつなぐ

「一つの学園構想」



保育所・幼稚園・小学校・中学校が一貫教育のように学びをつないでいく「一つの学園構想」。

これまで町は教育・指導理念に一貫性・共通性・継続性を持たせたこの構想を、全国でも早期より推進してきました。

教育施設の統廃合とともに五年が経過した今、子どもたちや教育者たちにどんな効果や変化が生まれているのでしょうか？

当時を知る教育者や当事者である子どもたちの声をお伝えします。

「一つの学園構想」の始まりとねらいについて町教育委員会高久賢一指導主事に伺いました。

Q. なぜ「一つの学園構想」がはじまったのですか？

A. 子どもたちが新しい環境で受けるシヨックを減らすため

どの教育機関でも子どもたちをいかに新しい環境に慣れさせるかが常に課題でした。

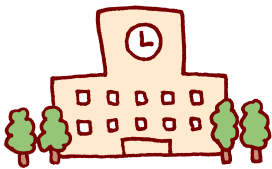
子どもたちは幼稚園から小学校、中学校と成長の過程で通園通学する場所、指導者など環境が何度も変化していきます。特に幼稚園から小学校への進学では生活習慣そのものに慣れていくこと、小学校から中学校への進学では、小学校の頃より少し自主性を重んじた指導方針への変化に慣れていくことが一番最初のミッシヨンとなるわけです。

子どもによっては新しい環境に慣れることができずに、通常の学校生活を送ることができるようになるまで時間がかかってしまう場合があります。



高久賢一 指導主事

前任地は柳津町立西山小学校。平成29年度より現職。
「生きる喜びを育む教育」実現のため、「一つの学園構想」の具現化を目指してきた。
教育機関と行政の橋渡しなどの重要な役割も担っている。



「いわゆる小一プロブレム、中一ギャップのことでしょうか？」
はい。どの子どもこの種のストレスを感じます。しかし、例えば幼稚園年長組が一年間何度も小学校を訪問し、小学生とふれあったり、授業を受けたたりすることによって新しい生活環境への不安が解消します。これにより環境の変化による大きなストレスが発生しにくくなるのです。
町には一保育所、七幼稚園、七小学校、そして二中学校があり、平成二十五年度まで統廃合により点在していた教育機関を集約しました。(現在は一保育所、二幼稚園、二小学校、一中学校。)

施設改修の際に、以前のとおり幼稚園・小学校を同じ敷地内に設置することにこだわりましたが、そのねらいは、園児・児童が密な関係を築き、段差をなくした指導を行いたいということにありました。

Q. なるほど。指導者の育成はどのように進めてきたのでしょうか
A. 毎月の情報共有会議でブレない教育方針、生活指導の「一貫性」「共通性」「継続性」を追求
町の教育機関（保育所、幼稚園、小学校、中学校）の職員で構成されるチームで、毎月情報共有や研修会を行っています。指導基準の明確化や学力の捉え方の相違に関する解消も図ってきました。指導者たちは子どもに関する情報を共有し、子どもたちを迷わせることのない指導方法を身につけ、実践しています。

※小一プロブレム：入学直後の一年生が集団行動が取れない、授業中に座っていない、先生の話を聞かないなど学校生活に馴染めない状態が続くこと
※中一ギャップ：学校や指導者の雰囲気、勉強方法、人間関係や生活リズムの変化に馴染めず、大きなストレスを感じる状態

「一つの学園構想」保・幼・小・中連携の具体的な取り組み



保育所

- 幼保連携
- ・幼稚園訪問
 - ・幼稚園児の保育所訪問
 - ・保育所職員幼稚園研修会
- その他
- ・認定保育所連携交流
 - ・学園構想の取り組み基盤づくり
 - ・保育所・幼稚園職員研修会



幼稚園

- 幼小連携
- ・小学校見学・体験入学
 - ・幼小連携授業
 - ・小学校運動会に参加
 - ・小学校学習発表会見学
 - ・小学生による読み聞かせ
 - ・小学校との合同避難訓練
- 幼保連携
- ・保育所訪問
 - ・幼稚園職員保育所研修会
- 幼小中連携
- ・基礎学力向上推進会議
 - ・相互授業参観



小学校

- 幼小連携
- ・小学校見学案内
 - ・幼稚園児への読み聞かせ
 - ・幼稚園教諭による1年生への読み聞かせ
 - ・幼小連携授業
 - ・幼稚園運動会への参加
 - ・幼小合同相撲練習
 - ・幼小水泳交流
- 小中連携
- ・中学校説明会・授業体験
- 幼小中連携
- ・基礎学力向上推進会議
 - ・相互授業参観



中学校

- 小中連携
- ・小学6年生への学校説明会
 - ・小学6年生授業体験
- 中保連携
- ・保育所職場体験
- 中幼連携
- ・幼稚園職場体験
- 幼小中連携
- ・基礎学力向上推進会議
 - ・相互授業参観

指導者間会議・研修

基礎学力向上推進会議・授業研究会・相互授業参観を行い、教員の指導力向上を推進

※保育所：0才～2才、幼稚園：3才～5才

幼・小連携授業の継続で、入学後すぐに授業本筋に取り掛かることができました。

小学一年生が四月当初からきちんと座って授業を受けることができるのはほとんど奇跡に近いです。他の地域ではまず考えられない。

普通、最初の一カ月は「授業っていうのは座って静かにしているもの」というのを実践するだけで子どもたちも精一杯です。ですが、幼・小の連携授業で体験済みの子どもたちだから、最初からストレスなく授業を受けることができるんです。

「もう一つ、一貫した生活指導が実を結んでいると感じます。すべての教育機関を通して、あいさつ

の実践を伝えてきました。みなさんは町中で子どもたちに出会ったとき、あいさつされるんじゃないでしょうか？」

あいさつをする。規則正しい生活をする。家庭学習をする。そんな当たり前の事を当たり前に行えるように「一つの学園構想」のなかで指導方針を明確にしています。

子どもが将来何になりたいのか。夢に向かって努力する子どもたちを具体的に指導していく、そして応援するのが教師の役目。それをよりスムーズにするのが「一つの学園構想」の保・幼・小・中一貫教育です。

今、素晴らしい効果が現れだしていますよ。



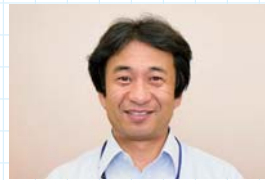
鈴木 茂雄 教育長

「保護者の方、特にお母さんが子どもさんの悩みを一人で抱え込みがちです。ぜひ、すぐに学校に相談をしてください。私たちが相談に乗ります。」

平成27～29年度 坂下東小学校校長、30年度4月より現職。
けん玉や手品で子どもたちを魅了。「シゲちゃん」の愛称で親しまれている。

「一つの学園構想」当初よりその全てを見守ってきた先生方や保護者の方に、環境の変化や子どもたちの成長を伺いました。

学びの橋渡しして子どもたちの理解度が深まっています。



坂下東小学校 木野 善弥 先生

コアティーチャー(算数・数学) 平成21年度から旧坂下小学校、25年度より南小学校、27年度より東小学校に勤務。現在は南・東小学校、中学校で算数、数学の授業を行っている。

小学校では週二回、中学校では週一回授業を受け持っている。子どもたちそれぞれに習熟度や得手不得手を把握しています。中学校進学後もそれを踏まえた上で指導していくことができるので、「算数」からより高度になった「数学」でも理解度を深められる学習指導を行うことができます。

「一つの学園構想」が始まって以来、授業や小・中連携の在り方を多方向から模索してきた結果が徐々に実を結んでいると感じます。

※コアティーチャーは各小中学校において授業の質的向上、学力向上を図るための算数・数学・理科を専門とする優秀教員の平成30年度の算数・数学コアティーチャーは、会津管内に3名で、小学校教諭として唯一、会津坂下町に配置されている大変貴重な指導者。

子どもたちの意識向上や教育環境の醸成が見られます。

小学校と幼稚園の連携授業が多く、小学生の子どもたちの思いやりの気持ちや、年下の子にいろいろ教えてあげなくてはならないという気持ちも育っているように感じます。

中学校においては、小学校からの学習習慣を継続発展させるような「学習の手引き」に沿って取り組んでいくことができるので、学習意欲の向上も見られています。また、小学校から励んできた部活動を継続できる指導環境も整っているため、ぐんぐん上達しています。

また、仕事のことでありますが、従来小学校六年生までだったフッ化物洗口も中学一年生まで継続できるようになりました。子どもにとって良いことを、教育機関と行政が連携してよく話し合い、実現しやすい環境が培われてきたのは「一つの学園構想」の五年間の結果だと思えます。

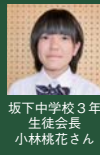


桑原 里美さん

坂下東小学校PTA副会長 長6年生、坂下中学校3年生の2児の母 普段は歯科衛生士として歯科検診、フッ化物洗口などを行い町の子どものむし歯予防に取り組んでいる。

「一つの学園構想」のここが良い！ ―当事者たちの声―

学校説明会で中学校入学の不安を軽減



坂下中学校3年生 生徒会長さん 小林桃花さん

学校に親しみを持ってもらうため、六年生への学校説明会は生徒会が行っています。学校生活やテストへの臨み方など、私たちが学校生活で感じる本音を伝えることで、中学校入学の不安解消になればいいと思います。

相互授業参観や研修で指導力を高めることができる



坂下中学校 淳先生 内海

相互授業参観や、教科ごとの研修が盛んです。よりよい指導方法を得ることは、生徒の学力を高めることに直結します。指導力を高めるべく、指導力が整っているところが素晴らしいです。

子どもたちのストレスが起りにくい環境づくりが徹底されている



坂下小学校 神内透校長

「一つの学園構想」は、小「プロブレム・中一ギャップ」の軽減において十分に効果を発揮しています。幼稚園年長児は小学校に十分慣れた状態で入学しますし、小学六年生は中学校での授業体験を通して、学習内容や学校の雰囲気を感じること入学の不安を解消することができます。指導面では、幼・小・中教員が一緒に行う定期的な会議で、互いの情報を得て指導に活かすことができますので、教員の指導力の強化につながっていると感じています。

園児たちとのふれあいを通して生徒が成長



坂下南小学校 園児 関由紀子先生



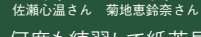
坂下南小学校 園児 金田貴美先生

「一つの学園構想」の取り組んで成長してきた最初の子どもたちも高学年になり、園児たちのために何かできることはないかと「読み聞かせ」を企画する児童も現れました。小さい子のために何かしてあげたいという「思いやり」の気持ちも育ってきているところも良いですね。

私たちが読み聞かせを行いました!



坂下南小学校 6年生 佐瀬心温さん



坂下南小学校 5年生 菊地恵鈴奈さん

私たちは「ばんげ読み聞かせの会」の方に絵本を読んでもらっている時、園児のみんなにも読み聞かせをしてあげられたらと思い、去年図書ボランティアで提案しました。何度も練習して紙芝居を披露しました。みんな真剣に物語を聞いてくれてうれしかったし、小さい子と関わりが持てたのも良かったです。今年も練習して読み聞かせをしたいと思います。

中学生まで続く生活習慣の基礎を教えることができる



坂下南幼稚園 園児 角田裕美先生



坂下南幼稚園 園児 平野陽子園長

幼稚園で基礎を固めることにより小学校で大きな効果が出ています。校庭やプールなど学校の施設を広く使った遊びは体力向上につながり、また段差なく小学校の学習に取り組めるようになります。最近では保育所の子どもたちが園に遊びに来るなど、幼稚園への移行もスムーズに行うことができます。幼稚園へ移行できるような環境を整えています。

交流を通して幼稚園へのスムーズな移行へ



坂下南幼稚園 園児 藤田成子園長



坂下南幼稚園 園児 江川千史先生

子どもたちと職員同士の交流により、保育所の子どもたちが無理なく幼稚園に移行できます。幼稚園児にとっては、修了した保育所に来ること、懐かしい時間となっているのです。また、今年からは公立保育所と認可保育所が連携を図り、お互いの施設の良い点を認め合い、乳幼児保育の共通理解と保育の資質向上を目指していきたいと思っています。

園児たちが小学生と自然に交流できる



坂下東幼稚園 園児 永山直美先生



坂下東幼稚園 園児 村岡由美子園長

園のエンタラントランスから小学校と校庭を見渡すことができ、教師と子どもたちがお互いにあいさつすることで自然に交流を深めることができます。開園当初から進めてきた幼小連携や交流で子どもたちの小学校以降の段差（小「プロブレム」）の解消に繋がっています。全教育施設の指導者による定期会議などで一貫した指導方法の追求や、指導者同士の意思疎通、交流を深めてきた結果だと思っています。



「一つの学園構想」のこれから

効果を最大に発揮する「町の規模」を強みに関係機関の連携を強化

教育施設を集約することで、子どもたちにとっては、バス通学や自転車通学になったりと不便を強いる部分も出てきたのは否めません。しかし、集約した効果は決して小さいとはいえません。まずは、子どもたちが小さな頃から大勢とふれあい、遊びや遊びで成長できること。そして、この構想によって、保育所・幼稚園・小学校・中学校が縦横無尽に交流できることです。この構想の実現に一役買っているのが、町の規模に他なりません。

幼稚園と小学校、それから小学校と中学校の交流や、一環した教育方針を持つ指導者の育成も、以前の体制では現在のようないきさつな機動力と迅速性を保持して発展することはなかったでしょう。悪くいえば中途半端とも言える人口・面積規模が、意外にも教育の面においては理想的に働いているのです。今年度から、本格的に保育所と小規模保育施設との連携も始まり、ますます関係機関の連携が充実してきています。町の規模を最大限に生かして、連携を強めていく、そして最終的には地域全体で子どもを育てる町を目指し、取り組んでまいります。



齋藤 文英 町長